

荒尾市オンデマンド型相乗りタクシーの実証実験について

【経緯】

- ・ H29 年度に荒尾市、三井物産株式会社等で、電力を中心とするエネルギーの地産地消を実現し、荒尾市の特性を活かした持続的なまちづくりの推進・実現を目指すため、「地域エネルギーの有効活用等を中心としたまちづくりに関する連携協定」を締結。
- ・ 本協定の連携事項である「公共インフラの効率化の促進」に基づき、三井物産株式会社から本実証実験について事業提案。
- ・ 本市としても、既存の公共交通機関と共存した新たな公共交通体系の構築の可能性を探るため、フィールドの提供及び周知広報等について協力を行う。
- ・ 三井物産株式会社を主体とし、有限会社荒尾タクシーの協力により実証実験を行うもの。

(参考：協定による連携事項)

1. 市所有の公共施設、市内企業などを需要者とする電力の地産地消
2. 次世代自動車などの電動インフラの整備
3. CO2 削減などの環境に配慮した社会の実現
4. 市内の遊休施設などの有効的な利活用
5. 公共インフラの効率化の促進
6. IT 関連の教育機会の創出
7. その他地域社会に関連するエネルギーの有効かつ適切な利活用、地域社会の活性化に関する事項

【実証実験の進め方】

STEP1 (今年度：H31 年 1 月 21 日～1 月 27 日実施予定)

三井物産㈱と(有)荒尾タクシーによる利用料金無料での実証実験の実施。

(経費負担→三井物産㈱)

※道路運送法第 21 条に基づき本実証実験の許認可取得後、実施する。

STEP2 (来年度)

本協議会による利用料金有料での実証実験の実施。(一カ月程度を想定)

※STEP2 (来年度) の事業内容等については、STEP1 (今年度) の実証実験の結果を踏まえ、改めて荒尾市地域公共交通活性化協議会に諮るものとする。

【本市の考え】

本実証実験については商業化の可能性を考慮しながら、オンデマンド型相乗りタクシーの導入可能性について調査し、将来的には路線バスとの共存を目指した持続可能な公共交通網の構築を目指すこととしたい。